

平成28年度 学校評価実施報告書

2 2回目評価

・個別評価項目の設定及び各項目にねらいを定めた取組の計画・実施 ・取組結果を検証するためのアンケート項目や各種指標の設定			
分野	評価項目	(1回目評価を踏まえた) 年度末までの取組	(取組結果を検証する) アンケート項目・ 各種指標
確かな学力	授業改善	支部研修会への参加 校内授業研修会の実施	・授業に集中できていますか。 ・学習確認プログラム等の結果
	家庭学習に習慣化	朝学習、再テストの実施 定期テスト前の学習計画作成	・家庭学習を自主的に行っていますか。
	読書の習慣化	新刊図書呼びかけ 朝読書の実施	・1日あたりどれくらい読書を読みますか。
豊かな心	「公共の精神」に基づく態度の育成	生徒会から服装やベル着の呼びかけ、非行防止教室の実施 薬物乱用防止教室の実施	・いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。 ・学校の規則を守っていますか。
	人権学習の充実	各学年の実態に応じた人権学習	・人の気持ちがわかる人間になりたいと思いますか。
	共生を目指した教育の充実	交流及び共同学習の充実	・交流学习をすることで、自分が成長できていますか。
健やかな体	自他を大切に する態度の育成	規則正しい生活の呼びかけ、あいさつ運動 給食試食会の実施	・毎日朝食を食べていますか。 ・毎日同じくらいの時間に寝て起きていますか。
	健康への意識 高揚	保険だよりの発行 助産師さんによる出前授業	・生徒委員会による健康チェック ・性教育講演会等の感想文
独自の項目	研修会の充実	校内授業研修会 総合育成支援教育研修会 教科会 等	・定例化および自主研修の充実
	保幼小中高の連携	小中合同研修会 絵本の読み聞かせ 部活動交流 オープンスクール	・オープンスクールや絵本の読み聞かせ等の感想文
	保護者、地域との連携	参観、PTA活動、家庭教育講座、 高校や企業との連携(出前授業)	・家の人は、授業参観や行事に来ますか。
	情報発信の充実	HP発信、学年学級だよりの発行 吹奏楽部等の地域行事に参加	・学校HPのアクセス数



・アンケート実施結果、 その他指標の結果について整理	自己評価	
	評価日	平成29年2月16日
	評価者・組織	学校評価委員会
アンケート結果・ 各種指標結果	分析 (成果と課題)	分析を踏まえた改善策
・「授業に集中できている」生徒の割合は94% ・学習確認プログラムの結果は、全体的に上位をキープ	授業に対する集中力はとても良好である。家庭学習については、向上がみられる。読書については、朝読書等の取り組みも実践しているが、日々の生活の中に「読書」が定着しつつある。図書館支援員が廊下の掲示等で本の紹介を積極的に行い、徐々に効果がでてきた。学習の手引きをより有効に活用していく。	家庭学習については、教科での指導に加えて、懇談会等で個別に働きかけ保護者にも協力を求める。読書については、日頃から活字に親しめるように、校長室前や学年のフロアなど環境面を整備し、本の紹介の充実させる。
・「家庭学習を自主的に行っている」生徒の割合は63%		生徒会活動を活活性化させ、生徒の中から二条中学校をよりよくしていこうという意識を高めると共に、自校に対する誇りを持たせる。(仮称: NSNプロジェクトの推進)
・「30分以上」で22%		規範意識や自尊感情等に対する意識は、全国平均を大きく上回っている。「二条中学校の人権文化」をしっかり継承していく。
・「思っている」が96% ・「守っている」が99%	日々の教育活動の中で、一人ひとりを大切に人権教育を展開できている。個別の指導案件に対しても、必要に応じて関係機関と連携しきちんと指導できている。	
・「わかる人間になりたい」と思っている生徒の割合は95%		
・「成長できている」と思っている生徒の割合は84%		
・「食べている」で96% ・「寝ておきる」で83%	家庭・地域の協力もあり、8割以上の生徒が規則正しい生活ができている。保健だよりなどを通じて健康に対する意識も高まってきた。HPIにもアップしている。給食試食会の実施により食育の大切さを保護者に啓発することができ、給食率は全市平均を上回っている。	保健室からの情報発信等も含め、常に共通理解を深めながら組織として指導に当たっていく。養護教諭と担任、部活動顧問の連携を密にしていく。
・健康への関心意欲が高まった。 ・命の大切さを再認識した。 ・保健室来室状況が減少 ・インフルエンザ等の大きな流行なし		
・基礎基本的な内容を身につけさせることができたが85%	個々の生徒の背景や困りを正確に捉え、迅速な指導を行う必要がある。	教職員同士の研修の場の保障していく。
・中学校生活に夢やあこがれを持つ生徒が増えた。	保幼小中連携も様々な行事等を通して計画的に実行できた。児童会と生徒会の連携も深まった。	幼小中連携は、生徒会と児童会の連携に発展させていく。生徒の目線で成果の上がる形に進展させていく。
・参観する、できるだけ参観するを合わせて79%		
アクセス52,678件(年間) (平均:149.7件/日) 昨年度比:111%		



学校名( 京都市立二条中学校 )

学校関係者評価	
評価日	平成29年3月6日
評価者 (いづれかに○)	学校評議員
学校関係者による意見	学校運営協議会・ 学校評議員による 改善に向けた支援策
生徒が家庭学習しやすい環境をつくるよう、小中の連携と保護者の協力の呼びかけをしていく必要がある。小中を通して地域全体で、あいさつをすることが定着してきている。	PTAや地生連等の団体から、教育活動がより充実するように支援をする。ボランティアや外部の人材の活用を積極的に取り入れていく。
学校以外の地域や関係機関とも連携できている。	パトロールや日頃の声かけを積極的に行う。地域での情報を学校にもこまめに入れる。
保護者、地域、学校が一体となって生徒を育成することを再確認する。	
保護者、地域、学校の役割を明確にし、保護者に対しても働きかけを強める。	
文化祭等の行事の参観を通して、とても良好との評価である。	給食試食会等を継続し、保護者にも食育の重要性を呼びかける。回数を増やすことも検討する。
運動部活動での市優勝など、大きな活躍がみられた。	
交通安全に対し、意識を高めていく必要がある。	
とても生徒が落ち着いた環境の中で生き生きと学校生活を送っている。	お月見コンサート等、地域での発表の機会を通して、生徒が活躍できる場を増やし、地域をあげて支援していく。
ホームページや学校だよりは、年々充実し、学校の様子がよくわかる。	PTAのメール配信システムの登録数を100%に近づける。

3 総括・次年度の課題

・わかる喜びと学ぶ楽しさを実感できる授業の推進。	・教育活動全体を通した道德教育の推進。
・支援を要する生徒に対してのきめ細やかな配慮と指導。	・校種間の組織的な連携。
	・交通安全指導の徹底と充実。